

令和7年12月8日

浜田市議会議長 澁谷 幹雄 様

議員名 芦谷 英夫

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

- 1、視 察 名 「萩・石見空港利用促進に関する」講演会
- 2、視察事項 「新たな地方活性化の核となる萩・石見空港の必要性とは～地方の宝 萩・石見空港を活かし育てるために圏域として取り組むことは～」
- 3、視察の目的（市政との関連など） 市政にとって令和8年3月益田道路が開通することから、高速道路と空港を活用した観光振興は重要な課題であり、識者の意見など調査研究を行う。
- 4、日 時 令和7年11月27日（木）16時～17時30分
- 5、経 費 ガソリン代（浜田～益田往復）2,000円
- 6、視察のポイント・議員活動や市政への反映など 浜田市にとって観光振興は重要な施策であり、具体的な振興方策、空港や高速道路の活用、広域圏の連携などの施策を推進する。
- 7、視察内容 別紙のとおり



「萩・石見空港利用促進に関する」講演会

令和7年12月8日

- 1 日 時 令和7年11月27日（木）16時～17時30分
- 2 会 場 益田市（島根県芸術文化センター・グラントワ）
- 3 講演 「新たな地方活性化の核となる萩・石見空港の必要性とは～地方の宝
萩・石見空港を活かし育てるために圏域として取り組むことは～」
航空・旅行アナリスト 鳥海高太朗

4 概 要

- ① この講演会は萩・石見空港利用拡大促進協議会が主催したもので、一日2往復運航している東京・羽田便の2025年度の利用者目標を14万9,000人としており、同協議会が空港の知名度アップと誘客をめざし講演会を開催した。
- ② 鳥海高太朗さんは、航空会社や国内旅行の情報をインターネット、テレビなどで発信するアナリストで、協議会が掲げる利用者目標を達成するため、圏域の自治体で必要な取り組みや戦略や手法などをお話された。
- ③ （鳥海高太朗 以下同）旅は究極の非日常で、観光はいかに人を呼び込むかであり、どこの観光スポットでも1回だけで十分な所が多い、2回以上のリピーターを呼び込むことが重要で、2回以上訪れたいと思わせる魅力的なコンテンツが必要である。
- ④ 大阪・関西万博は、これからの観光のあり方を考えさせられ、前売券は不調であったが、万博の好調の要因は、メディア発信が多くなり、大屋根リングやミャクミャクの好評、16時から入場できる夜間チケットなどが功を奏した。
- ⑤ 日本政府観光局は外国人観光客を20年4,000万人、30年6,000万人としていたが、ピークは19年3,188万人、コロナ禍の21年24万人、24年3,687万人まで回復しており、コロナ禍の前後で外国人観光客数は大きく変わっている。
- ⑥ 外国人観光客の三大都市圏宿泊率は72.5%にのぼっており、地方の課題は最高級ホテルや旅館が少ないことで、最高級ホテルや旅館があることが求められており、石見地方は特に富裕層向けのホテルが不足している。
- ⑦ 羽田便があることで知名度が向上し、空港の価値が上がり、海外からの乗継利便性も高まり、インバウンドにもつながる。伊丹空港の年間運行も観光客の周遊性などから実現すべきである。
- ⑧ 観光客誘致には「とんがった」ものが必要で、平均点ではなく突出しているものがあると面白く、中でもホテルとグルメが重要であり、いかに発信し知ってもらうか、地方として考え打ち出すことが必要である。
- ⑨ 車が運転できない人が萩・石見空港に到着後、観光する方法を考える必要があり、リムジンタクシーは圏域住民にはメリット大きいですが、観光客にとってはハードルが高い。いま実施している24時間1,000円レンタカーキャンペーンの取組は素晴らしいが、前日予約が可能、日帰り、島根県外宿泊可能など利用しやすくする。
- ⑩ 近隣4県で萩・石見、出雲、米子、鳥取、広島、岩国、山口宇部の7空港あり、高速道路網の整備が進み、周遊する観光客の増加に向け、レンタカーの乗り捨てなど

空港間の連携が必要で、浜田駅、津和野駅、萩駅など乗り捨ても考えられる。

- ⑪ 全国的に定着しつつある「カーシェア」は、1時間880円でタクシーよりも安く利用が広がっており、これは萩・石見空港にも必要で、これにより石見地方の観光の範囲が広がり、全国的には「カーシェア」を導入しているホテルも増えている。
- ⑫ 島根県へ行っても、どこへ行けば良いか分からない観光客が一定数あり、これは観光客が松江や出雲に止まっており、温泉、自然、歴史文化、魚、グルメなどを前面に出した訪れたくなるよう、資源磨きと情報発信の工夫、進化が必要である。

5 所 感

- ① 浜田市は、高速道路、空港、JR、クルーズ船などが入込客を呼び込む交通手段であるが、これらとバス、タクシー、レンタカーなどによる横の接続をつくる必要があり、これらの交通、宿泊、観光事業者が連携する仕組みが必要である。
- ② 温泉、石見神楽、アクアス、どんちっち三魚など観光資源の磨きをかけ、地域資源間のつながりを具体化するとともに、つなぐ連携の仕組みと情報発信、観光の商品化などが必要である。
- ③ そのため県観光振興連盟（DMO観光地域づくり法人）、浜田市所管課、観光協会、商工会議所などこれら業界を結びつける、具体的につなぐ、それを商品化する、発信する体制が必要である。
- ④ 観光行政として、上記のことを推進する態勢が必要であり、これまでの情報発信だけにとどまる、事業者の対応待ち、観光客待ちではなく、事業者が前面に出る、観光客目線に叶う商品づくりなど、これまでから脱皮した施策を打ち出す必要がある。
- ⑤ 一方、萩・石見空港利用の少なさ、飲食や小売り消費の市外流出、石見神楽への関心の薄さなど、地域に対する愛着、誇りなど希薄であることが課題であり、浜田市をあげた元気づくり賑わいづくりを進める必要がある。

—以上—

